

国際数式記号処理学会議 (ISSAC-90)

への呼掛け

日本大学理工学部数学科 小林英恒 (Kobayashi Hidetsune)

1990年8月20日から8月24日の間、日本大学理工学部9号館にて、国際数式記号処理学会が開かれます。この会議は、1966年に米国ACMのSIGSAM (Special Interest Group on Symbolic and Algebraic Manipulation) によりSYMSACの名称で開催されて以来、本年ローマ大学で開催された会議まで、13回の開催実績をもち、この分野での最高水準の国際会議として高い評価を得ています。

1989年の14回の会議は米国ポートランドで開催されることがすでに決定されていますが、これまで開催地はすべて、欧米に限られていました。第15回にあたる1990年に、初めてアジア地域で開催される運びとなった次第です。

この会議は、日本ソフトウェア科学会、社団法人情報処理学会および米国ACMの共催により開催されますが、主要な議題は次の通りです。

1. 記号的・代数的・解析的アルゴリズム
2. 自動証明
3. 自動プログラミング
4. 計算幾何学
5. 数式、記号処理の為の言語およびシステム

この会議の議事録は、会議後出版され、広く全世界に販売される予定です。

論文を募集致します。投稿される方は、1990年2月頃までに

〒351-01 埼玉県和光市広沢、 理化学研究所情報科学

佐々木 建昭 氏

にお送りください。